

(トップページ:<http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(五大石油会社の業績比較:<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>)

(石油:<http://mylibrary.maeda1.jp/oil.html>)

マイライブラリー:0454

(注)本稿は2018年11月5日から15日まで6回に分けて「内外の石油情報を読み解く」に掲載したレポートをまとめたものです。

2018.11.19

前田 高行

## **各社とも利益が前年同期比で大幅増:五大国際石油企業2018年7-9月期決算速報**

<u>目次</u>	<u>頁</u>
1. 五社の7-9月期業績比較	2
2. 2017年第3四半期以降の四半期別業績の推移	5

スーパーメジャーと呼ばれる五大国際石油企業(ExxonMobil、Shell、BP、Total 及び Chevron)の4-6月期決算が相次いで発表された。ここでは売上高、利益(総合及び上流部門、下流部門)、売上高利益率、設備投資および石油・天然ガス合計生産量について各社の業績を横並びで比較するとともに各社の四半期決算の推移を検証する。

決算の詳細は以下の各社のホームページを参照されたい。

ExxonMobil:

<https://news.exxonmobil.com/press-release/exxonmobil-earnings-increase-57-percent-62-billion-third-quarter-2018>

Shell:

<https://www.shell.com/media/news-and-media-releases/2018/third-quarter-2018-results-announcement.html>

BP:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/media/press-releases/third-quarter-2018-results.html>

Total:

<https://www.total.com/en/media/news/press-releases/third-quarter-2018-results>

Chevron:

<https://www.chevron.com/stories/chevron-reports-third-quarter-net-income-of-4-billion>

なお前期(2018年4-6月期)及び2009年から2017年までの通年の業績比較は下記レポートを参照されたい。

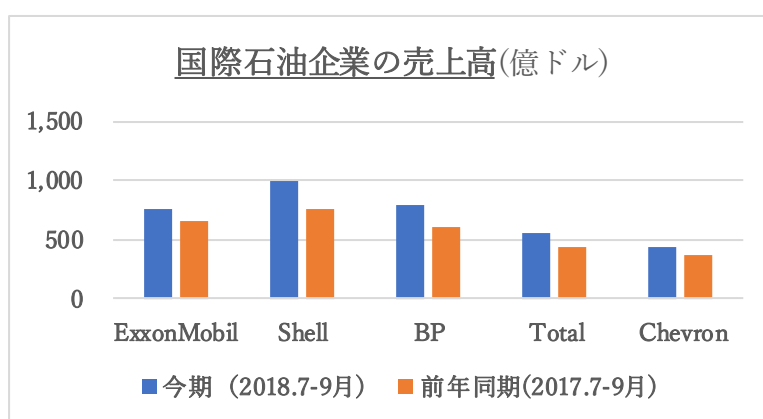
<http://mylibrary.maeda1.jp/SuperMajors.html>

## 1. 五社の7-9月期業績比較(末尾表:1-D-4-22 参照)

五社を横並びで前年同期と比較すると売上高及び天然ガス生産量では Shell がトップである。しかし総合利益、上流部門利益、設備投資、原油生産量および原油と天然ガスを合計した生産量の各部門では ExxonMobil が、下流部門の利益では BP、売上高利益率は Chevron がトップである。今期は各社とも売上及び利益が大きく伸び、特に利益は前年同期比で各社とも1.5倍乃至2倍と大幅に増加している。原油生産量では ExxonMobil がずば抜けて大きく、天然ガス生産量では Shell が他の4社をしのご最も多い。

(売り上げは各社とも前年同期比で2~3割の増収!)

### (1) 売上高



2018年7-9月の売上高は5社ともに前年同期に比べ2乃至3割の増収である。各社の原油・天然ガス生産量は Shell 及び BP は前年同期を下回り、また天然ガスは ExxonMobil 及び Shell が落ち込んでおり、その他生産量が増加した各社もその増加率は売上のそれを下回っている(本稿下記参照)。従って売り上げの上昇は原油天然ガスの価格がアップしたためと考えられる。

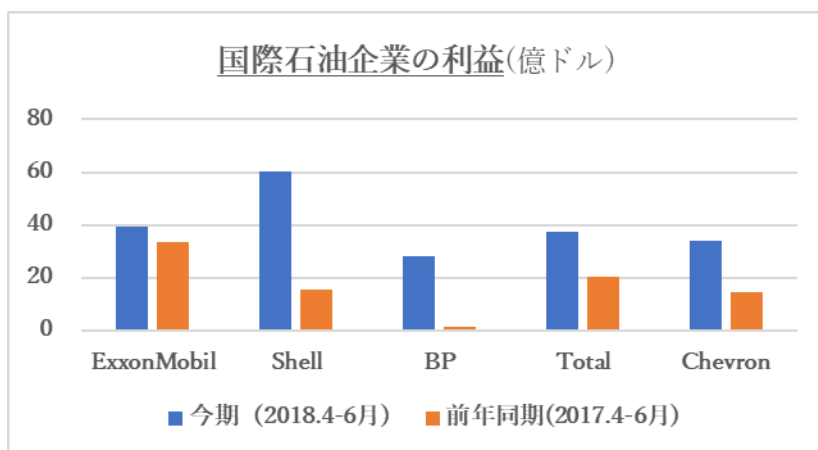
の上昇は原油天然ガスの価格がアップしたためと考えられる。

因みに Shell の決算資料で見ると、昨年第3四半期はバレル当たり平均47.06ドルであったものが、今期は68.38ドルに上昇している。2011年あるいは2012年のピーク時には年間平均価格が100ドルを超えたが、昨年第2四半期は6割、今期は7割まで戻っている。原油価格の上昇がそのまま各社の売上高の増加に反映されたと言えよう。

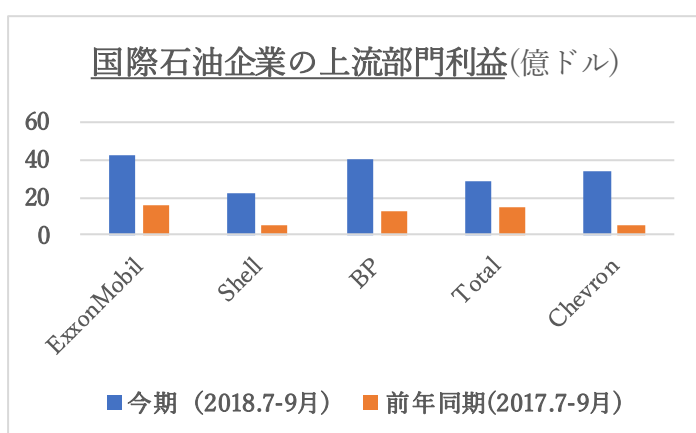
各社の売上高および対前年同期の増加幅は、ExxonMobil が766億ドル(16%増)、Shell 1,002億ドル(32%増)、BP 795億ドル(32%増)、Total 547億ドル(27%増)、Chevron 440億ドル(22%増)であった。

### (2) 総合利益

今期は5社ともに前年同期を大幅に上回る利益を計上、Chevron、BP は2倍、ExxonMobil、Shell 及び Total も1.5倍前後の増益であった。利益額が5社の中で最も大きいのは ExxonMobil の62億ドルであり、前年同期(40億ドル)の1.5倍である。ExxonMobil に次いで利益が多いのは Shell の58億ドルであり、Chevron 及び Total が共に40億ドルである。特に Chevron は前年同期から倍増している。BP の7-9月利益は5社の中では最も少ない33億ドルであるが、同社も前年同期に比べ大幅に改善している。

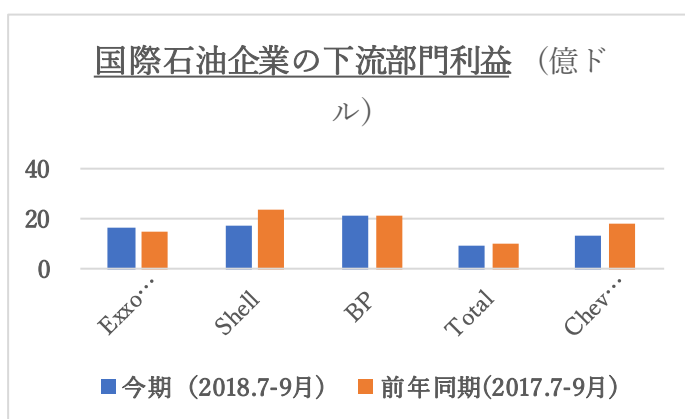


### (3) 上流部門と下流部門の利益



利益を上流部門(石油・天然ガスの開発生産分野)と下流部門(石油精製および製品販売分野)に分けて比較すると、上流部門は各社とも前年同期比で2倍乃至7倍と利益が大きく伸びている。利益が最も高かったのはExxonMobilの42億ドルで前年同期(16億ドル)の3倍弱であった。同社に次いでBPが40億ドル、Chevronは前期比7倍の34億ドルの利益であった。3

社に続くのがTotal(29億ドル)であり、最も少ないShellも22億ドルの利益を計上している。



これに対して下流部門の利益は5社中4社が前年同期を下回っている。利益が最も多かったのはBPの21億ドルであり前年同期に比べ微減であった。下流部門でBPに次ぐ利益を上げたのはShellの17億ドルであるが、同社の場合は前年同期より3割近く減少している。ExxonMobilはShellをわずかに下回る利益(16億ドル)であり、

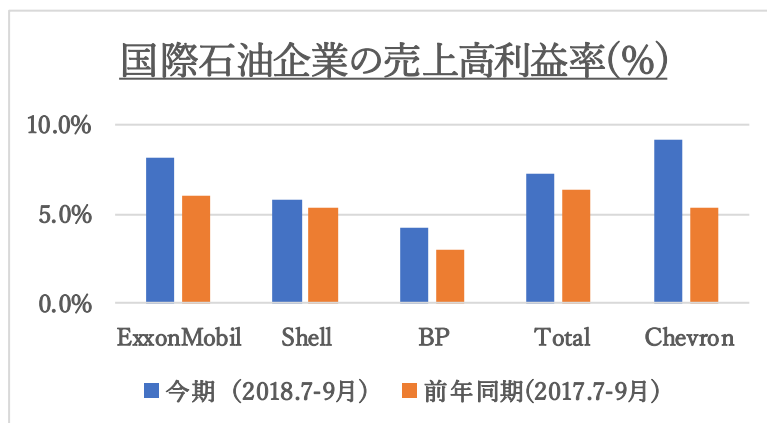
Chevron(14億ドル)がこれに続き、5社の中で下流部門の利益が最も少ないのはTotalの9億ドルである。

このように今期は各社とも上流部門が好調であり、下流部門の利益を大幅に上回っている。これは原油天然ガスの価格が大きく上昇したためである。歴史的に見ても五大国際石油企業は2014年に原油価格が100ドルを超えるまで上流部門の利益が下流部門を上回る時代が長く続き、その後一転して原油価格が暴落した2015~17年は下流部門の利益が上流部門を上回っていた。現

在原油価格が高値で安定しているため上流部門が各社の利益の源泉になっているのである。

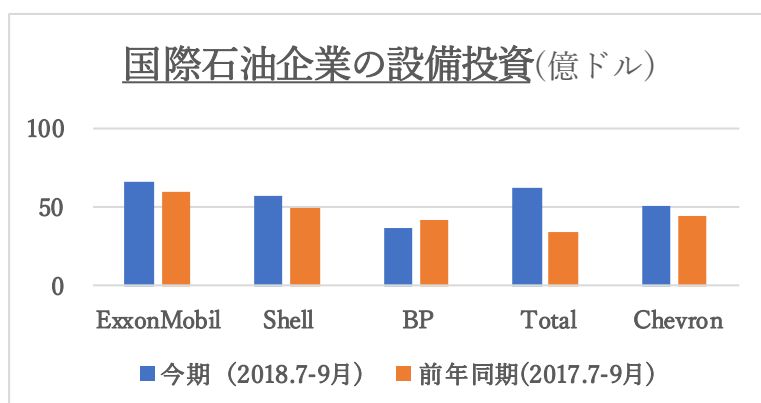
なお上記(2)総合損益は各社によって石油化学品部門あるいはその他の損益を含むため上・下流部門の利益の合計額とは一致しないケースがある。

#### (4) 売上高利益率



売上高利益率は Chevron が 9.2%と最も高く、Exxon Mobil 8.1%、Total 7.2%、Shell 5.8%と続いている。利益率が最も低い BP は4.2%である。今期は各社とも利益率は一桁台にとどまり、また5社の格差が小さい。前年同期に比べると全社で利益率がアップしている。

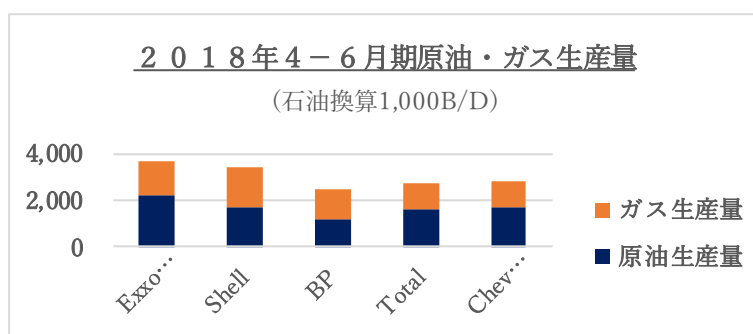
#### (5) 設備投資



2018年7-9月期の設備投資額が最も多いのは ExxonMobil の66億ドル、これに次ぐのが Total の62億ドルである。Shell 及び Chevron の設備投資額は50億ドル台であり、最も少ないBP は ExxonMobil 或は Total の6割の37億ドルである。前年同期に比べると Total はほぼ倍増、

ExxonMobil、Chevron 及び Shell は10~15%増加しているが、BP のみは前年同期を1割下回っている。

#### (5) 原油・ガス生産量(末尾表 1-D-4-22 参照)



今年7-9月の原油生産量は ExxonMobil が平均日産量229万バレル(以下 B/D)で5社の中では最も多い。その他の4社はいずれも200万 B/D 以下であり、Shell が181万 B/D、Chevron 179万 B/D、Total は161万 B/D、BP は ExxonMobil の半分強の122万

B/D で5社の中では最も少ない。ExxonMobil は世界各地で万遍なく原油生産をおこなっており他社を圧倒している。前年同期と比較すると Total が16%と大幅に増加しているが、Chevron、ExxonMobil は微増、Shell 及び BP は減少しており、特に BP は昨年同期の134万 B/D に対してほぼ1割減である。

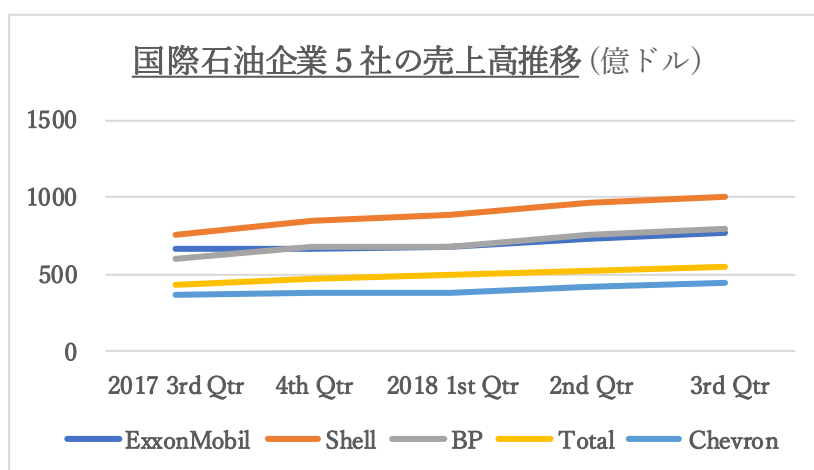
天然ガスの生産量は Shell が104億立方フィート(以下 cfd)と最も多く、ついで ExxonMobil が90億 cfd、その他3社は70億 cfd 前後で、最も少ない Total は66億 cfd であった。前年同期に比べると Chevron 及び BP はそれぞれ+17%、+11%と増加したが、ExxonMobil は6%減であり、Shell 及び Total はほぼ横ばいである。

天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量では ExxonMobil は379万 B/D でこれに次ぐのが Shell の360万 B/D で、この2社が300万 B/D を超えている。その他の3社は Chevron が296万 B/D、Total は280万 B/D、最も少ない BP は246万 B/D である。石油と天然ガスの比率を見ると、ExxonMobil と Chevron は石油60%、天然ガス40%であり5社の中では石油の比率が最も高い。また Total も石油57%:天然ガス43%と石油の比率が高い。Shell は原油と天然ガスの比率が50%ずつであり、これに対して BP のみは石油49%対天然ガス51%であり、天然ガスがわずかなではあるが石油を上回っている。

## 2. 2017年第2四半期以降の四半期別業績の推移

五社の売上高、利益(全体、上流部門および下流部門)、設備投資、原油・天然ガス生産量に関する2017年7-9月期以降今期までの四半期ごとの業績推移は以下の通りである。

### (1) 売上高の推移

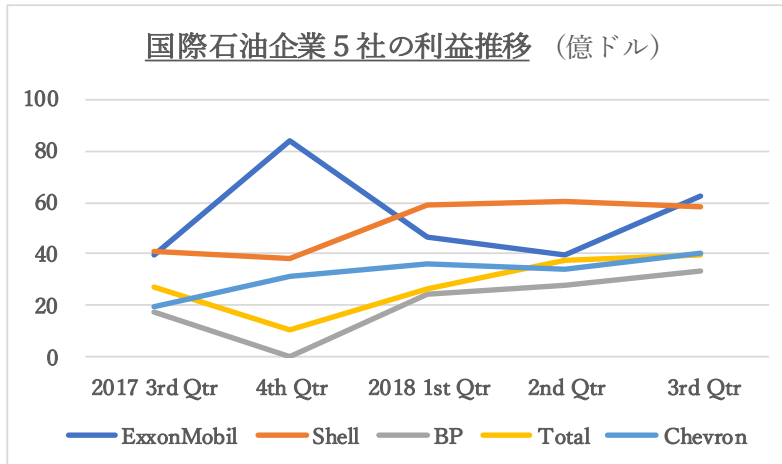


2017年第3四半期から2018年第3四半期に至る四半期ベースの売上高は原油価格の上昇を受けて各社とも増収基調にある。5社の中では Shell が758億ドル(2017 3rd Qtr)→854億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→892億ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr)→968億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)→1,002億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)と5期連続で売り上げト

ップを続けており、しかも2位、3位の ExxonMobil 及び BP との格差は拡がり5社の首位を固める気配である。Shell に次ぐのが ExxonMobil と BP でありその売上高の推移は前者が662億ドル(2017 3<sup>rd</sup> Qtr)→665億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→682億ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr)→735億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)→766億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)、後者が600億ドル(2017 3<sup>rd</sup> Qtr)→678億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→682億ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr)→754億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr)→795億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)であり殆ど差が無い。

この間の四半期平均原油価格(1バレル当たり)の推移を Shell の決算資料で見ると47.06ドル(2017 3<sup>rd</sup> Qtr)→55.28ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→60.74ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr) →66.24ドル('18 2<sup>nd</sup> Qtr) →68.39ドル('18 3<sup>rd</sup> Qtr)であり、昨年第3四半期以降、原油価格は45%上昇している。

## (2)利益の推移



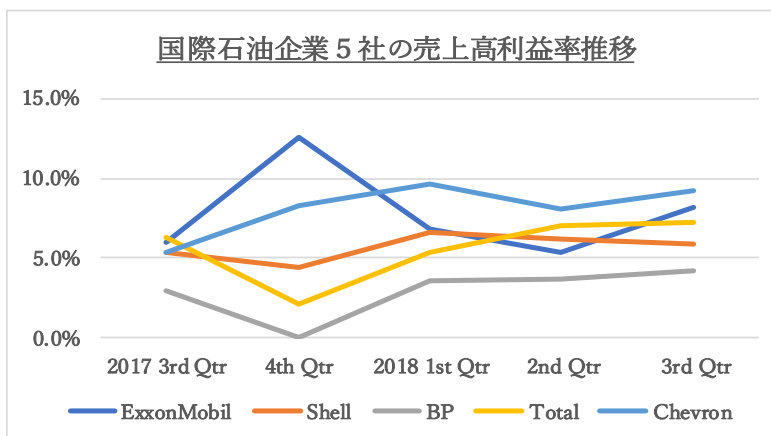
過去1年間の四半期ごとの利益水準は各社によって異なるものの、いずれもプラスであった。5社の中ではExxonMobilは40億ドル(2017 3<sup>rd</sup> Qtr)→84億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→47億ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr) →40億ドル('18 2<sup>nd</sup> Qtr) →62億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)と毎期40億ドル以上の利益を計上、特に2017年第4四半期は84億ドルと他社の2

倍以上の利益を記録している。Shell は41億ドル(2017 3<sup>rd</sup> Qtr)→38億ドル(4<sup>th</sup> Qtr)→59億ドル(2018 1<sup>st</sup> Qtr) →60億ドル(2<sup>nd</sup> Qtr) →58億ドル(3<sup>rd</sup> Qtr)と前期及び前々期はExxonMobilを上回り年間を通じて安定した利益を計上している。

Total は昨年第3四半期に20億ドル台の利益を計上したが、第4四半期は10億ドルに落ち込んだ。しかしその後は増益基調を続け今期は40億ドルと過去1年間で最高の利益を出している。Chevron も昨年第3四半期以降ほぼ一貫して利益を伸ばしている。

BP は5社の中で利益水準が最も低い状態が続いている。昨年第4四半期は収支トントンの状況であったが、最近の3四半期は30億ドル前後の利益を計上している。

## (3)売上高利益率の推移

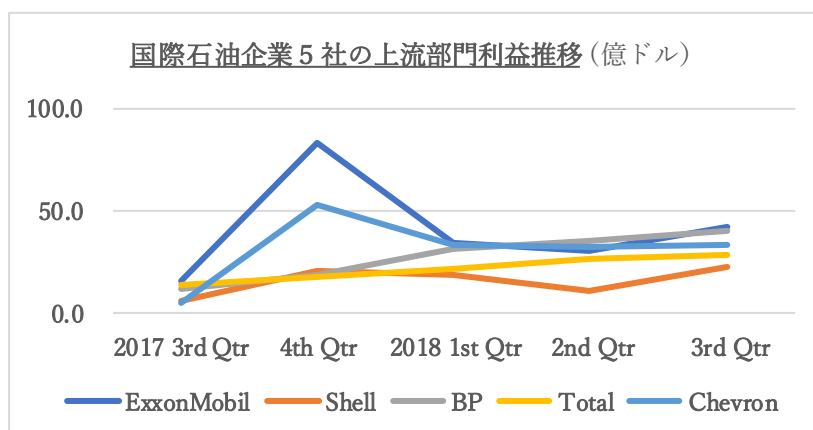


1年前の昨年第3四半期の5社の利益率は ExxonMobil、Shell、Total、Chevron の4社はいずれも6%前後であり、BPのみが2.9%の低い水準にとどまっていた。第4四半期には各社の明暗が分かれ、ExxonMobilは12.6%という高い利益率を示し、Chevronも8.3%で両社の利益率は前期を

上回った。これに対し Shell、Total 及び BP は利益率が低下し、特に BP は0%の利益率にとどまった。今年第1四半期は ExxonMobil 以外の4社の利益率が向上、Chevron が5社中最高の9.6%の利益率を達成した。前期は Chevron が8.1%で5社のトップを維持し Total が7.1%でこれに続いている。今期は Chevron が利益率9.2%と3期連続で5社のトップで、ExxonMobil がこれに続く8.1%の利益率である。BP は5社の中では最も低い利益率が続いているが、過去3期は4%前後で安定している。

#### (4)部門別利益の推移

##### (4-1)上流部門



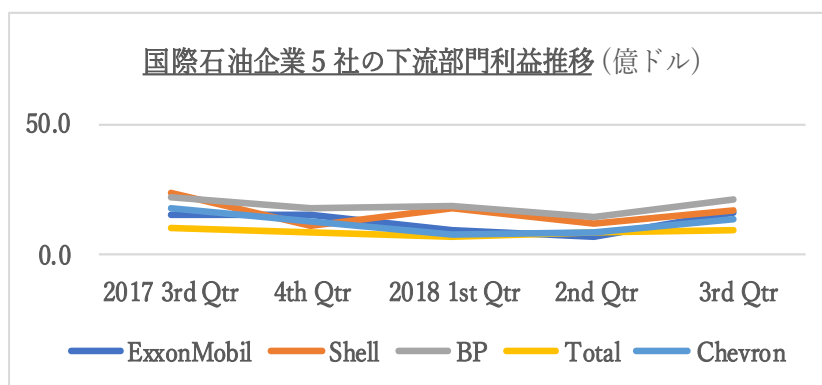
前年の2017年第3四半期の上流部門の損益が10億ドルを超えたの ExxonMobil16億ドル、Total 14億ドルおよび BP12億ドルであり、Shell 及び Chevron は一桁台の5億ドル前後にとどまった。

第4四半期は5社ともに二桁台の利益を出したが、特に ExxonMobil と Chevron の2社はそれぞれ84億ドル、53億ドルと大幅な増益であった。Shell、BP 及び Total3社はいずれも20億ドル前後で並んだ。今年に入ると ExxonMobil 及び Chevron の利益は減少した一方、BP が増益となりこれら3社の上流部門の利益は30億ドル前半で並んだ。これに対して Total は22億ドル、Shell は19億ドルであった。

第4四半期は5社ともに二

今期(2018年第3四半期)は5社すべてが前期を上回る利益を計上、トップは ExxonMobil の42億ドル、次いで BP40億ドル、Chevron34億ドル、Total29億ドル、Shell23億ドルとなり、BP、Shell、Total の3社は過去1年間で最も高い利益を計上している。Shell は総売上高で4社に水を開けているが(上記売上高の推移参照)、上流部門は他社に比べ見劣りがする。

##### (4-2)下流部門



過去1年間の各社の下流部門の利益は同じような傾向をたどっており、2017年第3四半期以降利益は縮小し、今年第2四半期までほぼ連続して落ち込んだのち、第3四半期に至ってようやく上昇に転じている。但し ExxonMobil を除き今期の

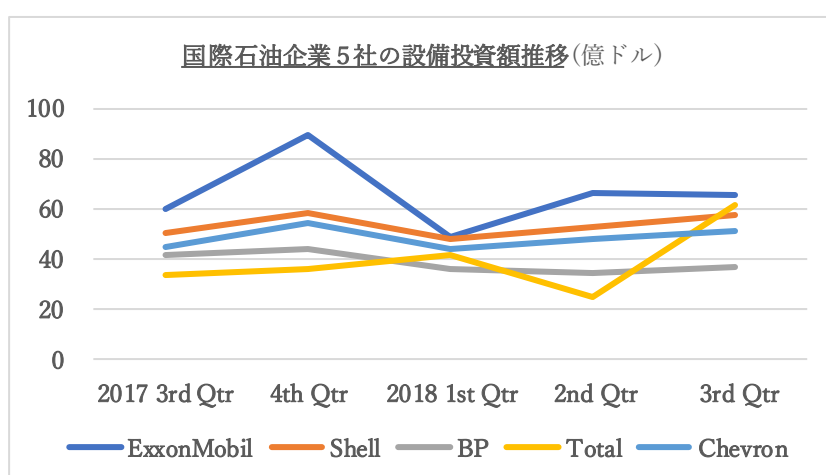
利益は前年同期を下回る状態である。

各社ごとにその推移を見ると以下の通りである。(単位:億ドル)

ExxonMobil:	15.3	→	15.6	→	9.4	→	7.2	→	16.4
Shell:	24.1	→	11.2	→	18.1	→	11.7	→	17.1
BP:	21.8	→	17.7	→	18.3	→	14.6	→	21.1
Total:	10.2	→	8.9	→	7.2	→	8.2	→	9.4
Chevron:	18.1	→	12.8	→	7.3	→	8.4	→	13.7

過去一年間の利益の推移を上流部門と下流部門で比較すると、上流部門は増益傾向にあるのに対して下流部門は今年第2四半期まで減益、第3四半期に回復しているものの一年前の水準には達していない。これは昨年から今年上半期まで原油価格が上昇し、現在高止まりしているためと考えられる。即ち原油価格が上昇トレンドにあるときは上流部門の利益が増加または堅調に推移し、一方下流部門は原油価格上昇時に利益が圧迫され、原油価格が高止まりすると製品価格に転嫁することにより下流部門の採算も向上するためと考えられる。

#### (5) 設備投資の推移



5社の四半期ベースの設備投資額は ExxonMobil が年間を通じて5社のトップを続けている。また ExxonMobil と Total は各四半期でかなり変動しているが、Shell、BP 及び Chevron の3社は各社とも投資が平準化されているようである。

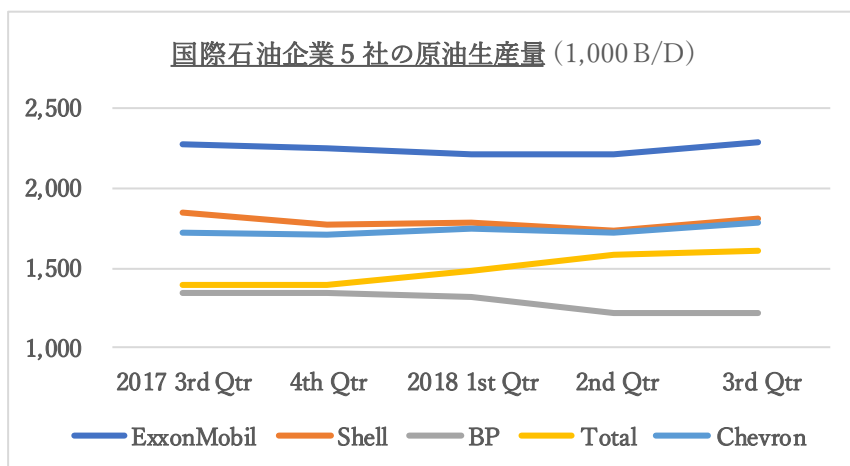
ExxonMobil の場合、2017年第3四半期の投資額は60億ドルで翌第4四半期には90億ドルに膨張したが今年第1四半期には49億ドルに減り、前期及び今期は66億ドルと1年前の水準に戻っている。これに対して Total は昨年第3四半期の投資額は5社の中で最も少ない34億ドルであったがその後増加し、今期は62億ドルとほぼ倍増し、ExxonMobil に次ぐ投資額である。

Shell、Chevron 及び BP3社はそれぞれ每期50億ドル台、40億ドル台或は30億ドル台の投資を続けている。

#### (6) 原油・天然ガス生産量の推移

##### (6-1) 原油生産量

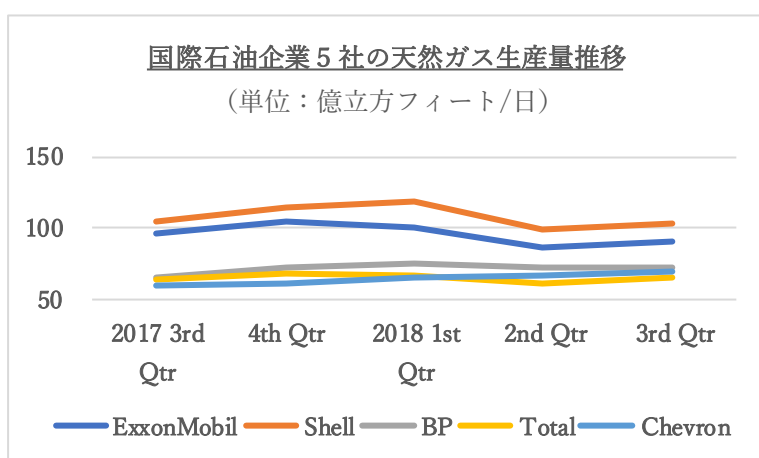




過去1年間の四半期ごとの原油生産量の推移を見るとExxonMobilが他社を引き離して5期連続でトップを守っている。ExxonMobilの生産量は5社の中でただ1社200万B/D台を維持している。同社の生産量は昨年第3四半期以降下降気味であったが、今期は再び1

年前の水準に戻っている。ExxonMobilに次ぐ二番手グループはShellとChevronで、その生産量は170万B/D台であり、直近の三四半期は両社の間に殆ど差が無い。TotalとBPの1年前の生産量は130万B/D台で5社の中で最も少なかった。しかしTotalは昨年第4四半期以降大幅に生産量を増加させており、今期は161万B/DとShell及びChevronとの差を縮めている。一方BPは昨年第4四半期以降生産量の減少が続いており、今期は122万B/Dにとどまり、Totalと40万B/Dの差がある。

#### (6-2)天然ガス生産量

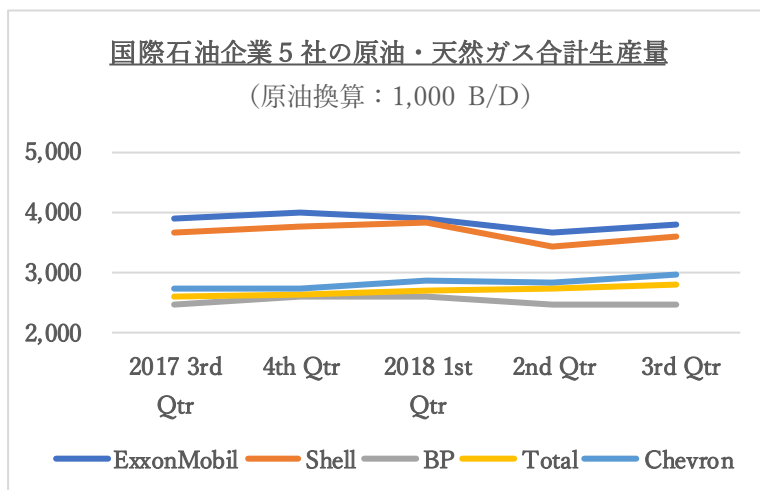


2017年第三四半期の天然ガスの生産量はExxonMobil及びShellの上位グループ2社とBP、Total、Chevronの下位グループ3社の2極に明確に分かれており、上位2社が日量約100億立方フィート(以下 cfd)に対し下位3社の生産量は60億 cfd前後にとどまっていた。ExxonMobilは昨年第4四半期をピークに低落の

傾向にあり、トップのShellとの格差が広がっている。但しShellの生産量も今年四半期に119億 cfdに達した後に急落し今期は104億 cfdと1年前の水準に戻っている。

一方下位グループではChevronは年間を通じて増加しており、BP及びTotalの生産量は横ばい状態である。この結果今期(2018年第三四半期)はShellの生産量が104億 cfdでトップとなり、続いてExxonMobilが90億 cfd、BP、Chevron及びTotalが70億 cfd前後で並んでいる。トップのShellと5社のうち最も少ないTotalとの生産量の差は34億 cfdである。

#### (6-3)原油・天然ガス合計生産量(図 <http://menadabase.maeda1.jp/2-D-4-65.pdf> 参照)



天然ガスを石油に換算した原油・天然ガスの合計生産量の推移を見るとトップの ExxonMobil は1年前の388万 B/D から減少し、今期は10万 B/D 減の379万 B/D にとどまっている。二番手の Shell は ExxonMobil にほぼ20万 B/D の差を付けられている。Chevron、Total、BP の下位グループ3社の昨年第3四半期原油・天然ガス合計生産量は2

50~270万 B/D でほぼ一線に並んでいた。この傾向は今年第1四半期まで続いたが、前期と今期は Chevron 及び Total が生産量をぞかさせたのに対し BP は逆に減少している。この結果 ExxonMobil、Shell の上位グループと Chevron、Total の差は縮小し、BP が最下位に取り残される状況になっている。

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601  
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642  
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

## 2018年7-9月期国際石油企業の業績

		ExxonMobil	Shell	BP	Total	Chevron
売上高(百万ドル)	2018年7-9月	76,605	100,151	79,468	54,717	43,987
	前年同期	66,165	75,830	60,018	43,044	36,205
	増減(%)	15.8%	32.1%	32.4%	27.1%	21.5%
総合損益(百万ドル) (*)	2018年7-9月	6,240	5,839	3,349	3,957	4,047
	前年同期	3,970	4,087	1,769	2,724	1,952
	増減(%)	57.2%	42.9%	89.3%	45.3%	107.3%
上流部門損益(百万ドル) (*)	2018年7-9月	4,229	2,249	3,999	2,864	3,379
	前年同期	1,567	575	1,242	1,439	489
	増減(%)	169.9%	291.1%	222.0%	99.0%	591.0%
下流部門損益(百万ドル) (*)	2018年7-9月	1,642	1,709	2,111	938	1,373
	前年同期	1,532	2,405	2,175	1,020	1,814
	増減(%)	7.2%	-28.9%	-2.9%	-8.0%	-24.3%
売上高利益率(%)	2018年7-9月	8.1%	5.8%	4.2%	7.2%	9.2%
	前年同期	6.0%	5.4%	2.9%	6.3%	5.4%
設備投資(百万ドル)	2018年7-9月	6,586	5,800	3,675	6,208	5,124
	前年同期	5,987	5,018	4,136	3,373	4,456
	増減(%)	10.0%	15.6%	-11.1%	84.0%	15.0%
原油生産量(1,000B/D)	2018年7-9月	2,286	1,810	1,216	1,611	1,787
	前年同期	2,280	1,852	1,341	1,392	1,719
	増減(%)	0.3%	-2.3%	-9.3%	15.7%	4.0%
ガス生産量(100万 cfd)	2018年7-9月	9,001	10,362	7,218	6,557	7,012
	前年同期	9,585	10,470	6,502	6,427	5,985
	増減(%)	-6.1%	-1.0%	11.0%	2.0%	17.2%
同石油換算(1,000B/D)	2018年7-9月	1,500	1,786	1,244	1,193	1,169
	前年同期	1,598	1,805	1,121	1,189	998
	増減(%)	-6.1%	-1.1%	11.0%	0.3%	17.1%
原油・ガス合計生産量 (石油換算 1,000B/D)	2018年7-9月	3,786	3,596	2,460	2,804	2,956
	前年同期	3,878	3,657	2,462	2,581	2,717
	増減(%)	-2.4%	-1.7%	-0.1%	8.6%	8.8%

\* 総合損益には石油化学部門あるいはその他の損益を含むため、上流部門・下流部門損益の合計額とは一致しない場合がある。